

### (3) 討論主題---『柔軟な界面を利用した分析化学』

オーガナイザ：巽 広輔（信州大）・高田主岳（名工大）・福山真央（京工繊大）

「やわらかいもの」は形が変わりやすいものであり、「かたいもの」と比べて不確定な要素を含んでいる半面、柔軟性を活かした広い適応性を発揮する場合もある。

分析化学において、たとえば固体電極を用いたボルタンメトリーや液体クロマトグラフィーは確立された方法であり、多方面で用いられているが、より幅広い測定対象を、より高感度に、あるいはより選択的に測定しようとしたとき、従来の固液界面だけでなく「柔軟な界面」、すなわち変形しうる界面を積極的に利用し新たに展開していくことが考えられる。ここではそのような視点で研究している研究者間で討論を行い、互いに刺激を与え合うことを目指す。

#### 【依頼講演】

- 1) ミセル内に取り込まれた小分子に対するミセル界面揺らぎの影響（京工繊大）水口朋子
- 2) 電極表面への分子認識ソフト界面の構築－非特異吸着の抑制と高感度認識（産総研）佐藤 縁
- 3) 固液界面で界面活性剤集合体が媒介する難分解物質の捕集と分解反応の促進（名大）松宮弘明
- 4) ジャイアントベシクルのダイナミクスとその応用（東大）豊田太郎
- 5) 液状炭素滴電極を用いるポーラログラフィー（信州大）巽 広輔
- 6) ナノ水滴生成を利用したマイクロ水滴内包物の分析前処理操作（京工繊大）福山真央
- 7) 柔らかく動かす－高分子ゲルアクチュエータ・微小ポンプ－（名工大）高田主岳

※演題は仮題を含みます。